

部活動地域移行・地域連携に関するアンケート結果報告書

1 調査概要

(1) 調査の目的

本市立学校の児童生徒（小学生4～6年、中学生全学年）とその保護者及び中学校教員の部活動に係る意識や実態、部活動の地域移行・地域連携に対する考え方を把握し、本市の地域移行・地域連携の検討資料とする。

(2) 調査の実施時期

令和6年7月11日（木）～7月19日（金）及び8月19日（月）

(3) 回答者数

- ① 児童生徒（小学生1,829名（回答率94.3%）、中学生1,377名（回答率73.1%））
- ② 保護者（小学生878名（回答率45.3%）、中学生801名（回答率42.5%））
- ③ 教員（中学校99名（回答率80.5%））

2 調査結果【対象：児童生徒及び保護者】

(1) 中学校部活動の加入について（児童生徒及び保護者）

内容	小学生	中学生	保護者 (小学生)	保護者 (中学生)
部活動に加入したい（小学生）、加入している（中学生）、加入させたい（保護者）	69.3%	88.5%	91.5%	90.9%
部活動に加入しない（小学生）、加入していない（中学生）、加入させたくない（保護者小）、加入していない（保護者中）	7.4%	11.5%	8.5%	9.1%
悩んでいる・分からない	23.3%			

全ての対象者において、部活動への加入を希望する割合は高い。小学生においては、まだ加入を決め切れていない割合が2割強あるが、保護者の加入希望が高いため、9割近く加入することが推察される。 → **部活動の存在価値は高い。**

(2) 休日の部活動について（児童生徒のみ）

内容	小学生		中学生	
休日は部活動以外の他のことがしたい	38.6%		31.2%	
休日（土・日曜日、祝日）の <u>いずれか1日</u> は部活動を行いたい（現状維持）	28.8%	49.9%	32.6%	55.8%
休日に部活動を行いたい	21.1%		23.2%	
どちらともいえない・分からない	11.5%		13.0%	

休日に部活動を行いたい者は、小学生では半数近く、中学生では過半数いるため、休日に部活動を望む割合は高い。ただし、一定の割合で部活動以外のことがしたいという意見もある。 → **休日の部活動を望む意見は半数程度ある。**

(3) 休日の部活動に代わって行われる、地域・民間のスポーツや文化活動への参加について

内容	小学生		中学生		保護者 (小学生)		保護者 (中学生)	
通学している学校又は学校近くの施設であれば <u>参加したい、参加させたい</u>	28.7%	60.5%	26.9%	53.0%	35.8%	58.0%	39.6%	60.7%
どこであっても、自分の求める条件に合えば <u>参加したい、参加させたい</u>	31.8%		26.1%		22.2%		21.1%	

学校の部活動でないなら参加したくない、参加させたくない	39.5%	47.0%	8.4%	8.1%
部活動であっても、そもそも休日の活動はさせたくない			9.6%	6.8%
まだ分からない			24.0%	24.4%

現在、中学校で部活動を実施している中学生は、現状を変えたくない意識があるため、小学生に比べて、部活動でないなら参加したくないという意見の割合が多いと推察する。全対象で地域・民間スポーツ活動への参加については、ある程度理解はあると考える。

→ **部活動に代わる地域・民間スポーツのニーズは、児童生徒及び保護者共にある。**

(4) 休日の部活動に代わって行われる、地域・民間のスポーツや文化活動の活動内容について

内容	小学生		中学生		保護者 (小学生)		保護者 (中学生)	
中学校の部活動の延長として活動したい	37.8%		31.5%		50.5%		57.8%	
部活動とは異なる活動をしたい	25.4%	37.6%	17.8%	58.7%	17.1%	27.2%	15.4%	28.6%
中学校の部活動にはない活動をしたい	12.2%		40.9%		10.1%		13.2%	
小学校から続けている部活動以外の活動を継続したい	24.6%		9.8%		22.3%		13.6%	

保護者は、部活動の延長としての活動を望む意見が過半数あるため、児童生徒をよく知る教員が指導する安心感を望んでいると推察したが、次問でそうでないことが分かる。恐らく、学校管理下での活動を望む意見が多いのではと推察する。一方、児童生徒は、部活動以外の活動を望む意見が多く、特に中学生の割合が高い。→ **活動者本人である児童生徒は、部活動以外の活動を望んでいる。保護者は相反して部活動の延長としての活動を望んでいる。**

(5) 地域・民間のスポーツや文化活動の指導者について

内容	小学生		中学生		保護者 (小学生)		保護者 (中学生)	
中学校で平日の部活動を指導している教員	38.1%		35.3%		10.2%		11.6%	
経験がある地域の大人や大学生など	28.0%	61.9%	27.2%	64.7%	26.3%	89.8%	26.7%	88.4%
専門的な知識・資格を持った指導者	33.9%		37.5%		63.5%		61.7%	

児童生徒及び保護者共に、学校の教員が指導者となることには固執していなく、むしろ、経験や専門的な指導者を求める意見が多かった。特に保護者は、9割近くがそう望んでいる。

→ **外部の指導者を望む意見が多い。**

(6) 地域・民間のスポーツや文化活動の指導者が地域の大人や大学生の場合に、会費や謝礼として月額どの程度負担できるか

内容	保護者 (小学生)	保護者 (中学生)
負担したくない	5.0%	7.0%
500円～1,000円	29.2%	32.3%
1,001円～3,000円	47.0%	47.3%
3,001円～5,000円	17.3%	11.3%
5,001円以上	1.5%	2.1%

負担をしたくないという保護者は1割も満たない少ない意見であった。小中学校の保護者共に、1,001円～3,000円の負担はやむを得ないと理解がある。
→ 1,001円～3,000円の自己負担は可能との意見が多い。

(7) 地域・民間のスポーツや文化活動の指導者が専門的な知識・資格をもった者の場合に、会費や謝礼として月額どの程度負担できるか

内容	保護者 (小学生)	保護者 (中学生)
負担したくない	9.2%	11.6%
1,000円～2,000円	26.6%	30.3%
2,001円～5,000円	48.6%	42.1%
5,001円～10,000円	13.4%	13.9%
10,001円以上	2.2%	2.1%

負担をしたくないという保護者は1割前後と少ない意見であった。小中学校の保護者共に、2,001円～5,000円の負担はやむを得ないと理解がある。
→ 2,001円～5,000円の自己負担は可能との意見が多い。

(8) 地域・民間のスポーツや文化活動を既に行っていると答えた人数

内容	小学生	中学生
人数（児童生徒）	1,172人	664人
回答数に対する割合（児童生徒）	64.1%	48.2%
人数（保護者）	602人	344人
回答数に対する割合（保護者）	68.6%	42.9%
平均の割合	66.4%	45.6%

(9) (8)について、活動している内容は何か（保護者の回答を合算した割合）

内容	小学生	中学生
同世代で行う競技性・専門性が高いスポーツ・文化活動 【ボーイズリーグ野球チーム、ジュニア・ユースサッカーチーム、ジュニア交響楽団など】	37.0%	38.8%
同世代で楽しみながら行うスポーツ・文化活動 【マルチスポーツクラブ、ダンスサークルなど】	27.5%	21.9%
さまざまな世代で楽しみながら行うスポーツ・文化活動 【きよすスポーツクラブ、公民館の絵画教室など】	11.8%	9.7%
個人で行うスポーツ・文化活動【フィットネスクラブ、ピアノなど】	23.7%	29.6%

(10) 地域・民間のスポーツや文化活動に加入している理由について

内容	小学生	中学生	保護者 (小学生)	保護者 (中学生)
部活動には行いたい競技・活動種目がないから	16.0%	16.3%	30.8%	20.3%
部活動よりレベルが高く、専門的な指導が受けられるから	25.6%	31.4%	40.3%	52.4%
他校の友達と一緒にできるから	39.2%	27.4%	16.3%	9.8%
部活動より活動時間が短いから	13.5%	18.6%	11.2%	15.3%
部活動には上下関係が厳しいイメージがあるから	5.7%	6.3%	1.4%	2.2%

中学生が小学生に比べて、地域・民間のスポーツや文化活動に加入する割合が少ないのは、受験等の関係があることが推察される。活動種類は、それぞれ一定割合あるが、部活動よりレベルが高く、専門的な指導が受けられることが理由で、ボーイズリーグやサッカーチーム、ジュニア交響楽団などの競技性・専門性の高い活動へ加入している割合が多い。

→ 既に地域・民間のスポーツや文化活動へ加入する割合は、小学生では7割弱、中学生では5割弱であった。理由は、児童生徒及び保護者共に、部活動よりレベルが高く、専門的な指導が受けられる活動を望んでいることが分かった。

3 調査結果【対象：中学校教員】

(1) 部活動における指導状況について

内容	回答率	
やりがいがある	31.3%	56.3%
どちらかというやりがいがある	25.0%	
どちらともいえない	25.0%	
どちらかというやりがいは感じない	10.0%	18.7%
やりがいは感じない	8.7%	

(2) 部活動を担当することについて負担を感じているか

内容	回答率	
負担は感じていない	5.1%	
教材研究の時間がなくなる	18.9%	94.9%
帰宅時間が遅くなる	30.6%	
休日の指導や大会の引率	24.0%	
経験したことのないスポーツ・文化活動を指導すること	15.8%	
他の顧問や生徒、保護者との人間関係	5.6%	

(3) 部活動の在り方を変える必要性を感じるか

内容	回答率	
とてもそう思う	56.3%	82.3%
そう思う	26.0%	
あまりそう思わない	14.6%	17.7%
そう思わない	3.1%	

部活動を指導することにやりがいを感じている教員は6割弱いるものの、全く負担を感じていない教員は非常に少なく、また、現在の部活動の変化を望む意見は8割強ある。

→ 部活動にやりがいはあるが、何かしら負担を感じながら指導にあたっていることが分かった。教員のほとんどは、現在の部活動に変化を望んでいる。

(4) 部活動の地域移行・地域連携に関する意見について

内容	回答率	
児童生徒のスポーツ・文化活動は、今後も学校の部活動で実施すべき	17.6%	
まずは、休日の部活動から地域移行・地域連携に取り組むべき	31.9%	82.4%
休日のみではなく、平日も同時に地域移行・地域連携していくべき	50.5%	

学校部活動を今後も実施していくべきと回答した割合は少なく、部活動から地域へ移行・連携していくべきと回答した教員がほとんどであった。その中でも、平日の部活動から移行・連携すべきと答えた割合は過半数に上る。

→ 教員のほとんどが学校部活動から地域への移行・連携を望んでいることが分かった。また、平日からすべきという意見が過半数を超えている。部活動を実施しながら一部を地域でという方法に懸念を感じていることが推察される。ただし、段階的に状況を掴みながら進めていくべき課題と考える。

(5) 部活動が地域移行・地域連携された場合、指導者として関わりたいか

内容	回答率
関わりたい	22.4%
関わりたいくない	42.9%
悩んでいる・分からない	34.7%

現時点で、関わりたいと強い意志を持つ教員は、2割程度と少なく、関わりたいくない教員は、半数近くいる。

→ 教員の大半は、地域に移行・連携された場合、関わりたいくないとの意志を持っている。ただし、一部の教員は前向きな意志を持つため、兼職兼業などの受入方法を検討する必要がある。

(6) 部活動に外部講師や外部指導者を採用することについて（地域連携を想定）

内容	回答率
部活動は教員のみで実施するべき（反対意見）	13.2%
教員の負担が減るから賛成	86.8%

教員のほとんどが外部講師や外部指導者を採用することに賛成である。

→ 教員は、部活動の指導に第三者が入ることに抵抗はないと推察する。ただし、県のガイドラインでも示されているとおり、中学生を指導するには様々な知識やスキルが必要であるため、定期的な研修が必要となる。

4 まとめ

- 部活動もしくは地域・民間のスポーツ・文化活動としての休日の活動は、児童生徒及び保護者共に求めている。
- 地域・民間のスポーツ・文化活動について
 - <保護者>
 - 学校管理下の部活動の延長としての実施を望んでいる。
 - <児童生徒>
 - 部活動以外の活動を望んでいる。
 - <教員>
 - 学校部活動から地域・民間への移行・連携を望んでおり、外部講師や外部指導者を取り入れることについても賛成の意見である。一部の教員は指導者として参加することを望んでいる。
- 地域・民間のスポーツ・文化活動における指導者について
 - <保護者・児童生徒>
 - 部活動の教員がそのまま指導者になることよりも、専門的な知識・技術を持つ指導者を望んでいる。また、小学生及び中学生の保護者共に、月謝や参加費などの実費負担を拒む意見は少なかった。